分科会Ｂ「衣食住の生活」　　提案者　増田　佳那子（徳島市福島小学校）

提案発表主題　　「粘り強く課題に取り組むことができる子供の育成」

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して～

１　はじめに

現在，日々の生活で物を手に入れるには作ることより買うことが多い。欲しい物が簡単に手に入るためか，教室で落とし物をしたり，物をなくしてしまったりしても「また買えばいい」，「別にいい」と探すことをあきらめるなど，物に対する思い入れや愛着が薄い傾向が見られる。

そこで題材を「ひと針に心をこめて」とし，自分や家族の生活が豊かになる物を工夫して製作することで物に対する愛着がわき，大切に使おうとする気持ちが高まることをねらいとした。

今回の学習で縫い針に初めて触れる児童もいる。その中には，活動する前からあきらめてしまったり，課題に粘り強く取り組むことが苦手だったりする児童も見られた。そのため，縫い針に糸を通したり,玉結びや玉どめをしたりするなど基礎的･基本的な知識及び技能を身に付けるようにし，その知識・技能を活用して作品を完成できるようにすることで，学ぶ喜びや楽しさを感じ，粘り強く課題に取り組むことができる児童になることを願い，本主題に取り組むこととした。

２　研究の視点

(1)　基礎的・基本的な知識及び技能の習得
(2)　問題解決的な学習過程の工夫
(3)　学びの質を高める評価の工夫

３　学習指導要領上の位置付け

(4)衣服の着用と手入れ（１時間）

(5)生活を豊かにするための布を用いた製作（９時間）
生活の営みに係る見方・考え方　「快適・安全」

４　研究の実際

(1)　基礎的・基本的な知識及び技能の習得

①　２学年間の製作に関する題材配列と指導内容
指導内容を明確にし，製作の基礎における系統性を考慮し指導計画を立てた。

学年	題材	指導項目	製作題材	指導内容	人とのかかわり
5	ひと針に心をこめて（10 時間）	(5)ア(ｲ)イ	いちごの小物	縫い針に糸を通す・２本どり・玉結び・玉どめ	友達との違いやよさの発見
		(4)ア(ｲ) (5)ア(ｱ)イ	小物作り（マスコット・ペンケースなど）	製作計画・なみ縫い・かがり縫い・本返し縫い・半返し縫い・ボタン付け	家族へのプレゼント
	ミシンにトライ！手作りで楽しい生活（11 時間）	(5)ア(ｱ)(ｲ)イ	ランチョンマット	布を裁つ・ミシンの基本的な操作・直線縫い・返し縫い・三つ折り・アイロン・糸の始末	お世話になった人へのプレゼント
6	思いを形にして生活を豊かに（９時間）	(5)ア(ｱ)(ｲ)イ	エコバッグ ぞうきん	型紙・縫いしろ・ゆとり・しつけをかける・三つ折り・中表 ミシン縫い（直線縫い・返し縫い）	家族へのプレゼント 下級生へのプレゼント

② 教材・教具の工夫

実物投影機で製作手順を確認したり，各自タブレット端末で動画を視聴したりするなど，ICT を効果的に活用した（図１）。玉結び，玉どめを身に付けるため，いちごの小物（図２）を作品として製作したり，練習布を使って縫い方を繰り返し練習したりした。また，家族へのプレゼント作りをする前には，失敗例から自分の課題に気付くことができるよう工夫した。

図１　ICT の活用

図２　いちごの小物

(2)　問題解決的な学習過程の工夫

学習過程	時間	主　な　学　習　活　動
とらえる１	１	針と糸を使ってできる小物作りにおいて，課題を確認する。
見通す１	２・３・４・５	玉結び・玉どめ・なみ縫い・返し縫い・ボタン付けの手順を知る。 小物作りの計画を立てる。
確かめる１	６・７	小物作りを行う。
振り返る１	朝の活動	小物作りを振り返り，改善点を考える。（２作品目へつなげる）
とらえる２ 見通す２	８・９	家族へのプレゼント作りの計画を立てる。グループに分かれ課題を共有する。 全体で工夫点を共有し，計画・製作に生かす。（図３）
確かめる２	家庭	工夫した点に気を付けながら小物作りを行う。できた物を家族へプレゼントする。
振り返る２ 生かす	10	２回の製作を振り返る。 自分や家族の感想から，今後に生かせることを考える。

個人で振り返る　　グループで話し合い　　全体で共有　　個人で工夫を取り入れる

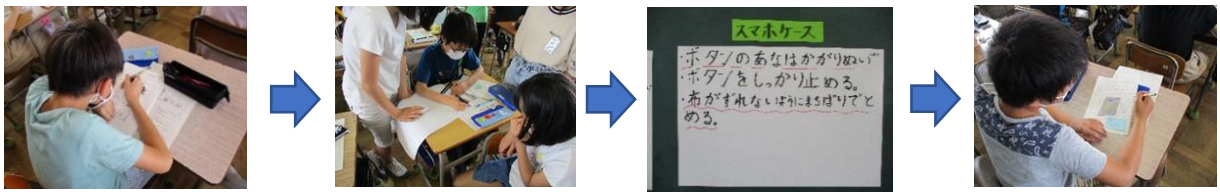

図３　考えを広げ，深める工夫

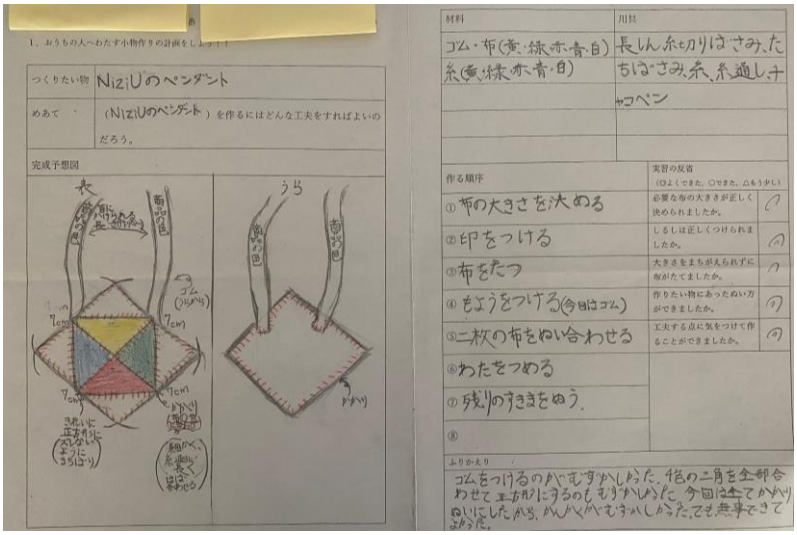

図４　製作計画・実習記録表

９時間目の家族へのプレゼント作りの話し合いでは，各自で計画（図４）を立てた後，グループに分かれ課題を共有した。グループで工夫する点を出し合い，ホワイトボードに書いた。「長く使えるようにボタンホールをかがり縫いにする。」，「見た目がきれいになるよう縫い目を均等にする。」などの意見があった。学級全体で工夫を共有する場面ではホワイトボードを見ながら，共通点や相違点を見付けた。「縫い目の大きさをそろえるというのは，どのグループも書いている。」，「布と糸の色をそろえると，縫い目が目

立たないというのは自分では気付かなった。」など新しい気付きも見られた。友達の工夫点を参考にして自分の作品には「ボタンの穴を４つのものにして丈夫に縫いつけたい。」「何回も使っているうちにボタンホールが大きくならないように，かがり縫いにしたい。」と丈夫にするための「快適」の視点で考えることができる児童もいた。問題解決的な学習を繰り返し行うことで，最初はかざりをつけることに意識が向いていた児童も「１作品目のペンケースでは，縫い目が大きくて鉛筆の先が出てしまったので，２作品目は縫い目の幅をもっと細かくしたい。」と使いやすさの視点にも目を向けられるようになった。

(3)　学びの質を高める評価の工夫

「主体的に学習に取り組む態度」は（ア）粘り強さ（イ）自らの学習の調整（ウ）実践しようとする態度から評価する。（ア）粘り強さについては，自分が立てた計画をみて試行錯誤しながら製作を進められているかを評価した。製作中に計画と比べて変更点がある児童には，なぜ変更したかを質問した。「本返し縫いにしようと思っていたけど，見た目のことを考えて細かいなみ縫いにした。」など，やりとりをすることで児童の考えを知り，課題に向き合っているかを評価した。また，計画の完成予想図のよい考えに線を引いたり，考えが分かりにくい箇所には，コメントを書き込んだりして，（イ）自らの学習の調整につなげた（図５）。（ウ）実践しようとする態度については，製作中の発言やワークシートの振り返りにより，新たな課題を見付け，難しいことにも挑戦しようとしているか，生活をよりよくしようとしているかについて評価した。

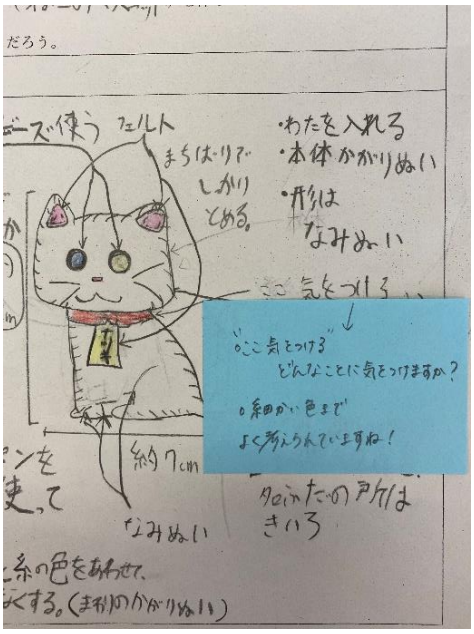

図５　製作計画・実習記録表へのアドバイス

計画の最初は課題を解決する方法が漠然としていた。そこで教師が具体例をみせたり，付箋にコメントをつけてアドバイスをしたり，友達の意見を取り入れたりすることで具体的にイメージすることができるようになった。このような実践を重ねることで，課題解決に向けて粘り強く課題に取り組むことができるようになった。自分の理想に近づくという喜びや嬉しさを感じた経験から，他の教科等においても，あきらめず取り組むことができる粘り強い児童が育ちつつある。

５　成果と課題

(1)　グループで課題を共有し，さらに学級全体で意見を共有し，自分の作品作りに取り入れたい工夫をまとめることで，よりよい考えや方法を学び，自分の考えを広げ深めることができた。

(2)　いちごの小物作りを通して玉結び・玉どめを何回も練習することで，全員ができるようになり，なみ縫いへのステップがスムーズにできた。また，小物ができあがることで，作る喜びや嬉しさが生まれ，製作意欲も高まった。

(3)　友達同士で教え合い，相互評価を行いながら，粘り強く作業に取り組むことができた。

(4)　１人１台タブレット端末を手元に置き，玉結び・玉どめや縫い方の動画を視聴できる環境を設定したが，実際に教師や友達の師範を見るほうが理解しやすい児童が多かった。タブレット端末の効果的な使い方は今後の課題である。